

Network

第1節 新たなネットワークづくりの潮流のなかで

身近で頼れる助け合いのシステム 地域福祉には、私たちの手も

汐見台
ホームサービスクラブ

昭和38年に、入居を開始した磯子区の汐見台団地。4000戸余りの世帯が、自然の起伏を生かし、緑が豊かに生い茂るゆつたりとした環境のなかで暮らしている。

ここで、地域の実情を見つめた取組みが始められた。汐見台ホームサービスクラブである。同クラブ委員長の本橋光子さんは、こう語る。「きっかけは、『汐見台自治会連合会健康シテム実行委員会』が59年度に行った、全世帯対象のアンケート調査でした。入居開始当時30代だった人びとも、今や実年と呼ばれる世代。老後も、この環境のなかで暮らし続けたいと考えている人は多い。でも、社会の高齢化が進みつつある昨今、汐見台団地にも、老夫婦のみの世帯や、一人暮らしの高齢者が確実に増えてきています。アンケートの中からも『一人暮らしをしていて、もし病気にでもなったら』そんな不安の声が浮かび上がってきました」

何ができるか、議論を積み重ねた結果、一つの形になったのが、ホームサービスクラブだ。「汐見台団地居住者を中心にした、会員制(有

料)の在宅福祉、家事サービスを行う組織」として、昭和61年2月、自治会連合会の中に発足した。

「会員制というのは、サービスを受けたい人と提供できる人をそれぞれ登録しておいて、会員



毎月1回、例会が自治会連合会事務局で行われる

同士で助け合いますよ、という趣旨なんです」と、本橋さん。

「最近の例ですと、80歳の一人暮らしのおばあさんが病院に通うときの付き添いですとか、母親が入院してしまった留守宅で、幼稚園に通う子どもの夕食を用意するサービス、それから、出産直後のお母さんの家事のお手伝いとか、いろいろですよ」

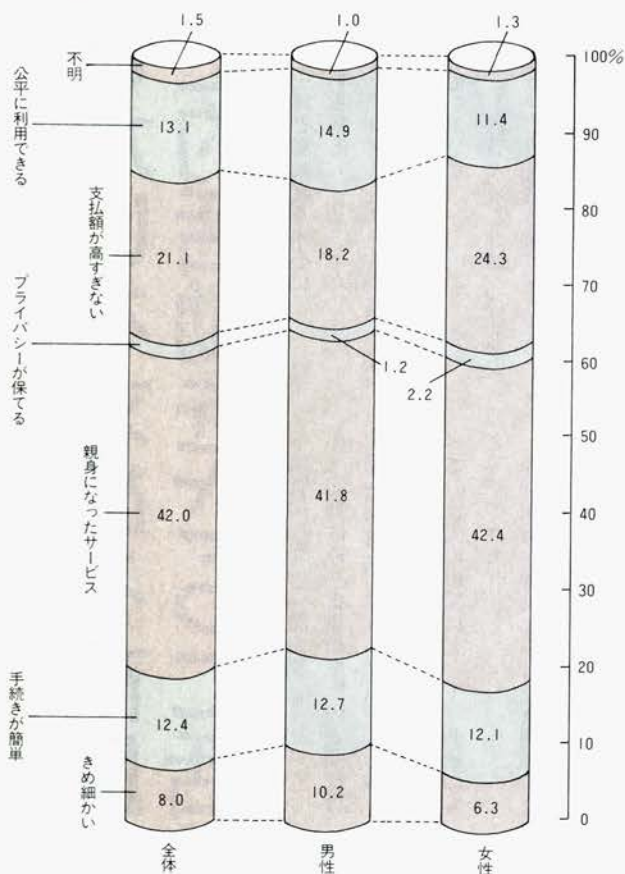
横浜市には、似た事業を行っている団体として、横浜市ホームヘルプ協会がある。これと比べると、どんな特色があるのだろうか。

「やはり、自治会連合会の一組織として行っていることです。現在、会員は70世帯ほどで、まだまだ多くはありません。でも、『困ったら、いつでも入会できるから』という人も多いです。身近にあるだけ、信頼感が高いといえます。それから、同じ団地の人が来てくれるから安心、という声もあります。もうひとつ、サービスを提供することで顔見知りになって、外で会ったときにちよつと挨拶を交わすとか、そんなささいなことが、一人暮らしのお年寄りには、

Network

■重視するのは親身になった暖かみのあるサービス

福祉サービスを利用する場合に、最も重視すること



本当に嬉しいことなんてすね」利用者からは、行き届いた思いやりのあるサービスが好評だ。それと、ボランティアや近所の人に頼むときは気兼ねがあるが、有料だからかえって割り切って頼みやすい、という声のすることも見逃せない。実際にサービスを提供している人にも、話を聞いてみた。「お年寄りのトイレの世話を、初めて経験しました。私自身にとって、よい勉強になりました」「産後の手伝いをしたときは、年代も近かった

し、自分の経験を話したりしながら、ほんとに楽しくできました」「留守宅に入るのは最初とても抵抗があって、誰かに見とめられたらどうしようとか、なかには誰もいないのに思わず挨拶を入ったりとか、今思い出すと、おかしくなるようなこともありましたね」などの答えが返ってきた。もちろん、苦労もあつたに違いないが、それを補ってあまりある充実感のあることが感じられた。今後の課題として、本橋さんは、

「汐見台のなかで、もっとホームサービスクラブの存在を大きくしていきたいですね。それとホームサービスクラブ実行委員会には、民生委員、赤十字奉仕団などにも入っていただいています。何もかもクラブが引き受けるということではなくて、お互いに情報交換しながら、依頼が一番いいかたちで応えていける体制を整えていきたいですね」と語る。肩に力を入れない、じっくりとした活動。自治会を基盤にした地域福祉の芽が、日常生活のなかでゆっくりとふくらんできている。

■日割のひとが、ボランティアも実費などを受けとってよいと考えている

